

フレスコ通信

3 2011 秋

平成23年11月編集発行

フレスコ友の会事務局

ホームページ <http://frescotomonokai.web.fc2.com/index.html>

【内容】

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1 フレスコ賛歌 | 大野 彩 |
| 2 フレスコ展 | フレスコ展実行委員会 |
| 3 ポルトス「命の賛歌」日本漆喰協会第6回作品賞受賞 | |
| 4 フレスコ探訪「ちあきの森」 | 工藤千秋 |
| 5 美術館巡り | 淵田 雄 |
| 6 ゲストコーナー | 小田川雅朗 |
| 今後の予定 | |
| 編集後記 | 吉井一弥 |
| 入会のご案内 | |



フレスコ展会場風景

1. フレスコ賛歌 (3)

《フレスコ展によせて》

昨年の暮れに「フレスコ友の会」を立ち上げてもうすぐ1年になろうとしています。フレスコは古来からある技法で、本物の自然素材によってつくられるスローフードのような絵画で、非常に耐久性のある技法です。しかし制作する人は少なく、ある版画家は日本では「フレスコは絶滅危惧種」であると表し現しました。

「フレスコ友の会」はこのような、「フレスコ」というまだ日本ではあまりポピュラーでない、しかし、魅力的な絵画技法をもっと多くの方々に紹介し、知ってもらいながら「フレスコ」を広めたいという趣旨で始めました。今年は、3か月に1回くらいの会報を作ることによって、フレスコ関連の情報や、友の会会員の活動を告知して、フレスコ壁画見学会も開催しました。

そして10月の終わりに、フレスコを描く人々約40人による「フレスコ展」を開催することができました。私がフレスコで個展を始めたころ、「フレスコってなんですか?」の質問に答えつつ、1週間の会期を終えることはしばしばでした。今現在、フレスコに取り組む若い作家たちもそうに違いないであろうと思います。今回、銀座の画廊に約40人、40種類のフレスコ画が集まりました。会場に足を運んでくださった方がたは、多様なフレスコの表現を見ることができたのではないのでしょうか。そして描く者同士の交流にも役立てたのではないかと思います。

来訪者の中には、フレスコファンはもちろん、美術館の方、建築家、アーティスト、石灰や漆喰関連のメーカーの方がたや、美術大学関連からハウスメーカーなど幅広い分野の方々に見ていただくことができました。このようにフレスコを描く人々が集うことで、フレスコのネットワークを広めていくことができるのではないのでしょうか。フレスコ制作者が増え、それを楽しむ人、そして石灰のメーカーや建築家などにも理解が深まれば、

絶滅を危惧することなくなるでしょう。制作者個人としての活躍と、様々の分野とのネットワークが広がっていくことを願ってやみません。

フレスコ友の会代表 大野 彩

2. フレスコ展報告

今年10月24日から29日まで、東京の日本美術家連盟画廊において、「フレスコ展」を開催した。来場者は300名を超えた。

プロの画家と勉強中の方々約40人が集まっていた展示であった。この展覧会のきっかけは、2年ほど前に、大野がモザイク会議の議長の宮内淳吉先生より、そろそろフレスコの展覧会も始めたらどうかというご意見をいただいたのが発端であった。実際には、なかなか開催の方向へ動けず、今年になって、フレスコを勉強中の方の発表をしようかということから始まり、プロのフレスコ画家の方々にも、呼びかけたところ多くの賛同者を得て、あっという間に30人を超えてますます増えていった。画廊の壁面を計算すると、一人あたりの幅が60cmとなったためにまだお誘いしたい方もあったのだが、会場の都合で、締切り、39人の展覧会となった。実行委員は、三野哲二、栗林恒郎、佐藤吉伸、大野 彩が務めた。

集まった作品の制作手法は、ブロン・フレスコはもとより、フレスコ・セッコも含めて、盛り上げの作品や、漆喰を使ったもの、磨きの作品など、変化に富んだフレスコ技法が集結することになった。フレスコはまだ認知度も低く、制作する人も少ない珍しい技法とされているが、これほど多くの人がフレスコを描いているのだと再認識をした。

出品は、北は富山県から、西は九州まで、いわば日本全国から参加をいただき、最終日のシンポジウム「フレスコを語る」の参加者は総勢 50 人を超えた。

シンポジウム最初のお話をお願いしていた宮内先生は体調を崩され欠席されたが、先生ご指名で、熊本の崇城大学有田巧教授にお願いして、「長谷川路可について」の講演で始まった。原田恭子氏からは当時の路可との出会いと教えについて等の話、大阪芸術大学名誉教授の丹羽先生から、最古の芸術表現と言われるアルタミラの洞窟にある人の手の指跡について、その他、現代のフレスコと壁画の耐久性について、高松塚の保存についての質疑応答、また、松木左官さんからはモロッコの漆喰磨きについて等々、参加者から活発な発言と質疑応答があり、非常に興味深いテーマを語り合うことができ、有意義な 2 時間となった。

フレスコの仲間たちがこのような形で集まることができたことは、これまでになく大きな成果となったと思う。フレスコを描く人々の集まりが、何らかの形で、今後も続き、今回の出品者以外の作家の方も、新しくフレスコに取り組む人々とも共に歩みを進めたい。フレスコという魅力ある絵画を広く告知、普及し、そして作家同士の交流の場を再び持つことを希望している。

フレスコ実行委員会

3. ポルトス「命の賛歌」 日本漆喰協会第6回作品賞受賞

10月6日、長崎県諫早において日本漆喰協会第6回作品賞授賞式が行われました。フレスコ壁画では埼玉県岩槻のポルトスの壁画“命の賛歌—祝福”（制作：小野塚香 大野彩 森勝也ほか）、及び、栃木県佐野市葛生の日本プラスターの壁画 大樹朝陽図（制作：福島恒夫）が作品賞となりました。

日本漆喰協会は、日本の伝統的な左官工法による安全で健康的な建築文化を後世に継承して行くために、国内の主だった漆喰メーカーが結集して設立されたものです。

過去5年以内の国内の漆喰やドロマイトプラスターを使用して創作された作品の中から日本の伝統的な不燃建築仕上げ材である漆喰の普及、技術の向上を図り、安全で環境と人に優しい漆喰工法による建築文化を後世に継承して行くための一助となること、併せて漆喰関連業界の発展に寄することを目的とし、社会的、文化的見地から特に優秀と認められる漆喰を使用した受賞作品が決定しました。（日本漆喰協会 <http://www.shikkui.gr.jp/> より）



《ちあきの森》
くどうちあき脳神経外科クリニック待合室

4. フレスコ探訪（3）

「クリニック大壁に映える“ちあきの森” と診察室天井に舞う大天使」

病を治す場所が病院であるとしたら、心を癒す処も必要です。人によって癒される処はいろいろ異なると思いますが、大きなエネルギーに包まれる大自然を挙げる方も多いのではないのでしょうか？ 私は病院も本来は体を治すだけの場所ではなく、心も癒す処であったのではないかと思います。

傷を病んでいる子供に手を当てて、痛いね、痛いねと言ってあげる母親、肉体だけでなく心も病んでいる方にも優しく接していたキリストやブッダなどの宗教者、またどんな病気の患者のためにも奮闘した赤ひげ。すべてに共通するベースに、治す・癒すという大きなパワーと愛情を感じます。それは人の発するパワーであり、それを見守る天の力であり、それを運んできてくれている天使たちの奏でる調べのようにも思えます。一方、大自然の森にはさわやかな空気があり、澄んだ水が流れ、ウサギや鹿などの大小動物やたくさんの食物が息づいており、生きるエネルギーに満たされています。

私は常々、西洋医学だけで治せる病は限られていると思っています。西洋医学の治療と東洋医学、鍼灸整体、それにアロマセラピーをはじめ、Yogaや気功、現代レイキなどの代替医療は全て同格、ただアプローチの方法が違うだけなのではないかと考えています。ある時には最新医療機器やメスが必要であり、ある時はアロマやYogaのゆったりとした時間に身と心を置き心身を整えていくことが、体を治し、心を癒すためには必要であるのです。

4年前、私のクリニックが現在の場所に移転・新築された際、大野彩先生にお願いし、そんなパワーを与えてくれる大自然と癒す母子像を表現する大壁画(図1)と、心と体を病んでおみえになられた患者さんと私自身に癒しのパワーをなげかけてくれる大天使像を診察室のドーム天井に描いていただきました(図2)。そして期待通りに、見事に描かれたその画から、毎日、クリニックを訪れるたくさんの患者さんと私はいいパワーを受けとっています。診療に疲れたとき、診察室ドームで奏でる大天使を見ていると私自身とても心が落ち着きます。大壁画は大野先生が“ちあきの森”と命名されました。

人生はたましいによる経験と感動の旅です。悠久の息吹を感じさせてくれるフレスコ画には、何かその旅の味わいとあたたかさを感じさせてくれるものがあるように思えます。無味乾燥とした現代社会の中で、あちこちにフレスコ画のあたたかさと思いが感じられるようになればきっと癒される方が増えると思います。ぜひ皆さんフレスコ画を広めて参りましょう！

くどうちあき脳神経外科クリニック
院長 くどうちあき



東京都大田区大森北1-23-10
電話 03-5767-0226
<http://www.kudohchiaki.com/>

診察室天使図 制作：小野塚香
開院11年記念日11月14日撮影

5. 美術館巡り 多摩美術大学美術館

皆様にはすでに当館へお運びいただいた方もいらっしゃるかと存じます。2008年と2009年に催した「Fresco 時を航る フレスコ I・II」は、我々にとっても画期的な展覧会でした。この展覧会における「技術」という、目に見えないものの視覚

多摩美術大学美術館
東京都多摩市落合 1-33-1 Tel. 042-357-1251
多摩センター駅(京王相模原線 小田急多摩線 多摩モノレール)
徒歩 5分
休館日 毎週火曜日 年末年始(12/28—1/5)
開館時間 10:00—18:00(入館は17:30まで)
入場料 大人一般 300円
HP <http://www.tamabi.ac.jp/museum/default.htm>

化は、美術大学を運営母体とする当館にとってこれからも積極的に取り組みたいテーマです。また、フレスコを「漆喰下地を持つ絵画」と位置付けたこと、そこからユーラシア大陸を俯瞰した新しい絵画観を発信できたことが大きな成果でした。

さて、大学の美術館としての特色が当館にはあります。2000年にキャンパスから飛び出し運営をしていること、つまり社会により近いロケーションにあることです。この条件を活用し、我々は小学校との連携講座や地域市民団体への協力などをこれまでに展開してきました。

展覧会事業としては幅の広いテーマを扱っております。フレスコはもとより日本画、彫刻、油彩、テキスタイル、デザイン、建築、古美術など、美術大学がカバーすべき領域と言い換えることもできるでしょう。また、昨年度には現在のロケーションに移設開館した10周年記念、そして大学創立75周年記念として「唐招提寺 金堂荘厳展」を開催いたしました。

所蔵品もエジプトやギリシア、ローマ、アジアの古美術から近現代作品、また歴史的なポスターなど多岐に渡り、この点でもやはり美術大学としてのキャラクターが表れているのではないのでしょうか。これらは、年度毎に二回程行われるコレクション展にてご覧いただけます。

現在は期せずして早逝した二人の若手作家、吉田哲也、若林砂絵子の彫塑や版画を展示しており、年末には文字の形(タイポグラフィ)について画期的な創造をおこなったイギリスの作家、エリック・ギル展も企画しております。

展覧会毎に、講演会やワークショップ、ギャラリートークなどのイベントも積極的に行っていますので、皆様どうぞお運びください！

多摩美術大学美術館学芸員 淵田雄

6. ゲストコーナー トロイツェ・セルギエフ大修道院

小田川雅朗

10月上旬、ロシア観光で見たロシアの正教会、修道院に多くのフレスコ画があった。

今回、そのうちロシア正教の「トロイツェ・セルギエフ大修道院」を紹介する。この修道院は、モスクワから北東へ100km位の古都セルギエフ・ポサードにある。古い歴史と豊かな文化遺産を持つ「黄金の環」といわれる地区のひとつである。14世紀に、多くの人々の信望を集めた伝道師セルギー・ラドネシスキーにより創設された。1993年に世界遺産に認定された。

大修道院は全長約1.4キロ程度の白い城壁に囲まれ、その中にいくつもおとぎの国のような寺院建物群がある。城門を入

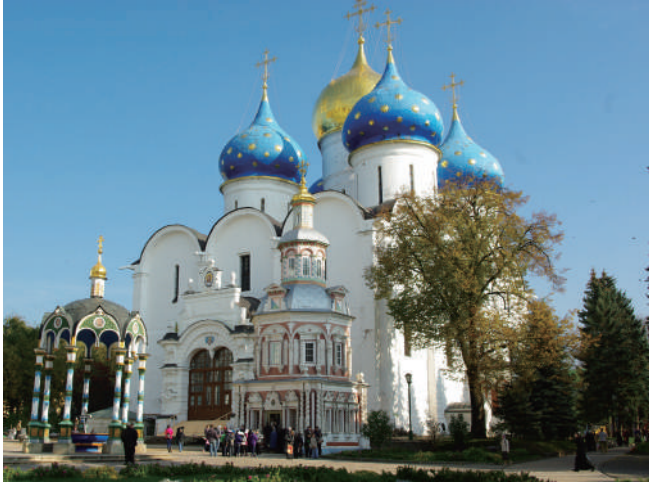


写真1 ウスペンスキー大聖堂外観

ると目の前に、修道院の顔である『ウスペンスキー大聖堂』【写真-1】がある。屋根は、たまねぎ型をした4つの紺碧のドームに囲まれ、中央部にはまばゆいごとかの黄金の大きなドームの屋根で構成されている。この屋根の「たまねぎ型」の由来は「ろうそくの炎」のイメージであると聞いた。

内部がすごい。背の高さの2倍以上もある「イコン」が沢山飾られ、その他の壁は隙間無くフレスコ画で埋められている。スリット状の開口部からの日差しが蠟燭の油煙に映え、なんともいえない独特の雰囲気をかもし出す。【写真-2】ツアー客がいない時は、より幻想的、神秘的な空間が造られていることだろう。ひたすら祈り続けていた老婆と、その足元を柔らかく包み込む黄金色の日差しが強く印象的に残った。

当時の村人たちは、殆ど読み書きができないため、キリスト生涯を図柄にし、わかりやすく説明し信仰を布教したといわれています。天使、聖職者、俗人、悪魔、聖書や聖人伝のいろいろな場面など。

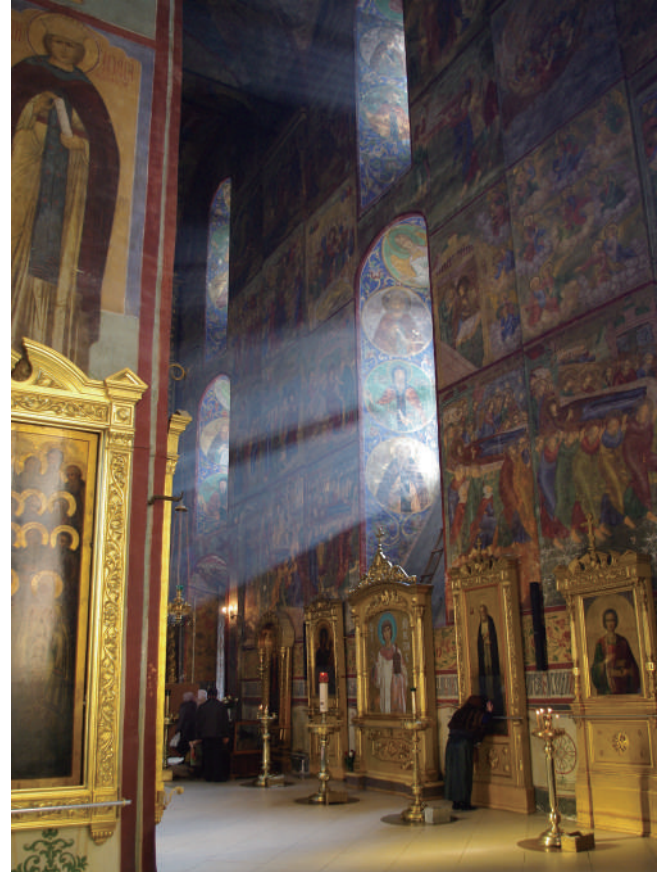


写真2 トロイツェ・セルギエフ大修道院内部

ドイツ、フランス、イタリア、スペインなど多くの代表的寺院を見てきたが、このロシア教会・寺院はそれらの国とは少し異なり、質素で、落ち着きのある壮大な寺院であった。一度訪れたら、きっと良い思い出となる場所だ。

編集後記

10月、銀座の日本美術家連盟画廊で開催されたフレスコ展では40人の作家の作品が並びました。フレスコと言ってもいろいろな表現が出来るのだと改めて思いました。我が国初めての企画だそうですが、これをきっかけに、フレスコがますます人口に膾炙し、多くの人に親しまれることを祈念したいと思います。

作品の中に、東北の被災地の瓦礫を用いた作品がありました。私たちが被災地の方のために出来ることは、まずは

大震災の記憶を風化させず、被災者のことを思い続けることだと思いますが、このような形で大震災を記憶に残すことは極めて有意義なことだと思います。

あの震災から8ヶ月がたちました。あの日のような雪の季節が近づきますが、被災地ではまだ傾いた家や、瓦礫となったビル、打ち上げられた船などがあちこちに見られ、復旧、復興の議論以前の状態のところもかなりあります。ふるさと東北が一日も早く元のような安らかな生活を取り戻すようお願いしてやみません。

フレスコ友の会事務局長 吉井一弥

今後の予定

《展覧会・イベント情報》

● 大野彩講演「游の会」(坪内正紀主宰)

「フレスコ画を巡る旅」(仮)

副題「シルクロードから高松塚」(仮)

日時 2012年5月19日(土) 午後

場所 成城ホール 集会室A及びB

東京都世田谷区成城 6-2-1 TEL 03-3482-1313

講演と実演を2～3時間

● ちあきの森見学会

日時 2012年1月平日(決まり次第 HP にて連絡します)

場所 壁画ラボ集合 (東京都大田区山王 1-31-2)

制作工程説明の後現地 (JR 大森駅側)

集合時間1時

《会員の活動情報》

● 坪内正紀主宰 2011 年度「游の会」講演会

一草月流家元 勅使河原茜さんの

デモンストレーションを楽しむ会ー

日時 12月3日(土) 午後3時スタート約2時間

場所 青山「草月会館」

入場料 3,000 円(コーヒー・ケーキ付き)

小学生～中学生 1,000 円

予約制 坪内正紀方 fax 03-3468-4728

氏名・連絡先をお書き下さい。

● 南谷朝子@ APIA40

日時 12月2日(金) 20時30頃～1時間

場所 APIA 40 TEL 03-3715-4010

(東急東横線学芸大学駅下車、改札口(東口)を出てすぐ右側の高架下に沿って側道に進み、ビリヤード場の先の高架下ガードの路地を左折、すぐ右の角にあるヘアースロンを目印にすぐ右折、そのまましばらく住宅街を4分ほど直進すると赤い大きな看板が正面に見えます。学芸大前下車徒歩8分)

¥2000 (1ドリンクオーダーお願いします)

※このライブハウスのHPには、フレスコ会員の“きょうちゃん”こと小野塚 香の作品が使われています。

<http://apia-net.com/index.html>

会員の皆様の関係する展覧会・イベントなどで、この欄に掲載希望のものがありましたら事務局にご連絡ください。

入会のご案内

フレスコ友の会では、会員を募集しています。フレスコの好きな人、フレスコに興味を持っている方などなたでも大歓迎です。また、お知り合いの方をお誘いください。

会の活動としては、フレスコの理解と普及、フレスコについての情報発信が中心です。また、会員同士の交流の機会も積極的に作ります。会員の方にはメルマガ・会報等で随時フレスコとアートについての情報を発信します。また、見学会やセミナー等を企画します。

絵画の原点・フレスコについて理解を深め、さらにアートの輪を広げたいと願っています。

事務局住所 東京都豊島区高松2-38-11（事務局長 吉井一弥）

TEL&FAX 03-3530-8017

携帯 090-8644-3793（事務局 吉井一子）

E-mail frescotomonokai@gmail.com

会費 年1,000円（入会申込みの方は平成23年分の会費の納入をお願いします。）

○ 郵便局からご送金（振替）の場合

口座番号 00120-6-466643 口座名称 フレスコ友の会

○ 他の金融機関からお振込みの場合

ゆうちょ銀行 店名 019 当座預金

口座番号 0466643 口座名称 フレスコ友の会

入会申込書

平成 年 月 日

フレスコ友の会への入会を申し込みます。

御氏名

御住所 〒

所属または御職業等（差し支えない範囲でお書き下さい。）

TEL

FAX

E-mail

・ご希望する連絡方法を選び、○をつけて下さい。 郵送 FAX メール

・ご記入の上、上記事務局にファックス又はメールして下さい。

※ 個人情報については取扱いを厳重に注意し、会の連絡にのみ使用します。

また、フレスコ友の会では、趣旨にご賛同いただけるかたに、賛助会員として会の活動と運営にご支援をお願いしています。賛助会員の年会費は 一口 1万円です。賛助会員になっていただける方は事務局までご連絡ください。